

伊勢物語「東下り」テスト対策練習問題と過去問まとめプリント②

年	組	番	名前
---	---	---	----

伊勢物語より「東下り」の原文を読んで、問いに答えなさい

伊勢物語「東下り」原文(第九段)

行き行きて、駿河の国に至りぬ。宇津の山に至りて、わが入らむとする道は、いと暗う細きに、蔦、楓は茂り、もの心細く、①すずろなるめを見ることと思ふに、修行者会ひたり。②「かかる道は、いかでかいまする。」と言ふを見れば、③見し人なりけり。京に、④その人の御もとにとて、⑤文書きてつく。

駿河なる宇津の山のうつつにも夢にも⑥人にあはぬなりけり

富士の山を見れば、五月の⑦つごもりに、雪いと白う降れり。

⑧時知らぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪の降るらむ

その山は、⑨ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ね上げたらむほどして、なりは塩尻のやうになむありける。

問1 「駿河」とは現在のどこにあたるか、次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：神奈川県
- イ：静岡県
- ウ：愛知県
- エ：滋賀県

問2 下線部①「すずろなるめを見る」の意味としてもっとも適当なものを次の中から選び○でかこみなさい。

- ア：おそろしい目にあう
- イ：心細い思いをする
- ウ：怖い思いをする
- エ：思いがけない目にあう



- 問3 下線部②「かかる道は、いかでかいまする」を現代語訳しなさい。
- 問4 下線部③「見し人」とは誰のことを指しているのか。原文からぬき出して答えなさい。
- 問5 下線部③「見し人」の「し」を文法的に説明しなさい。
- 問6 下線部④「その人」とは誰のことをいっているのか答えなさい。
- 問7 下線部⑤「文書きてつく」とは、「誰が」「誰に」「何をした」のか簡単に説明しなさい。
- 問8 下線部⑥「人」とは誰のことか。原文からぬき出して答えなさい。
- 問9 下線部⑦「つごもり」とあるが、「五月のつごもり」を現代語訳しなさい。
- 問10 下線部⑧「時知らぬ」とあるが、どのような山の状態をいっているのか、原文からぬき出して答えなさい。
- 問11 下線部⑨「ここ」とはどこのことを指しているのか答えなさい。



問12 「駿河なる」の歌には男のどのような心情が詠まれているか、次の中から適当なものを選び○でかこみなさい。

ア：宇津の山で知り合いに会え、安心した気持ち

イ：二度と都へは戻るまいという強い決意

ウ：宇津の山のあまりの人気の無さに驚く気持ち

エ：都に残した妻への想い

問13 原文の中から、「疑問」の係り結びが用いられている部分の「係助詞」と「結び」をこたえなさい。



伊勢物語「東下り」テスト対策練習問題と過去問まとめプリント② (解答)

問1 **イ**

【解説】駿河の国は、現在の静岡県中東部。

問2 **エ**

問3 (例) このような道に、なぜいらっしゃるのですか

問4 **修行者**

問5 **過去の助動詞「き」の連体形**

【解説】「見し」は「見る」の連用形「見」に過去の助動詞「き」の連体形「し」が接続している。

問6 (例) 都にいる、男の妻

【解説】「その人」とは、「唐衣着つつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ」で詠んだ「つま」のことである。

問7 (例) 男が、修行者に手紙を(都の妻に届けるよう)言づけた

【解説】「男」「修行者」「手紙」「言づける」がすべて書けているかがポイント。

問8 **その人**

【解説】男が都に残してきた妻のことである。「修行者」と間違えないようにしよう。

問9 **五月の末**

【解説】「つごもり」は月末という意味。



問 | 0 五月のつごもりに、雪いと白う降り

【解説】旧暦の五月は、真夏であるにもかかわらず、雪が降っている様に驚いて「季節を知らない」という意味で「時知らぬ」と詠んでいる。

問 | 1 都（京）

【解説】「ここで例えるなら、比叡山を二十重ねたくらい」と言っていることから、「ここ」は比叡山のある京都「都（京）」であることが分かる。

問 | 2 エ

問 | 3 【係助詞】か

【結び】らむ

【解説】疑問の係り結びが用いられているのは「いつとてか鹿の子まだらに雪の降るらむ」。係助詞「か」は、ここでは疑問を表しており、文末は推量の助動詞「らむ」の連体形となる。

